

新型インフルエンザについて

平成21年9月7日
下京保健所
松村貴代

本日の内容

- インフルエンザとは？
- これまでの経過
- 現在の状況
- 日常生活の注意点
- 「インフルエンザかな？」と思ったら

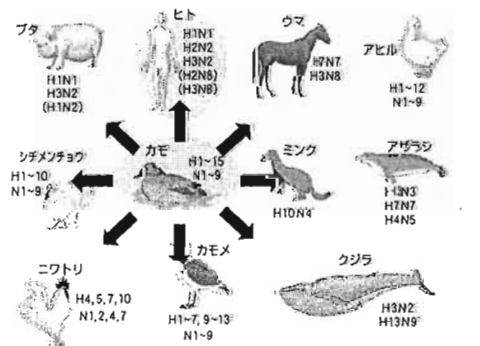
インフルエンザとは？

インフルエンザとは？



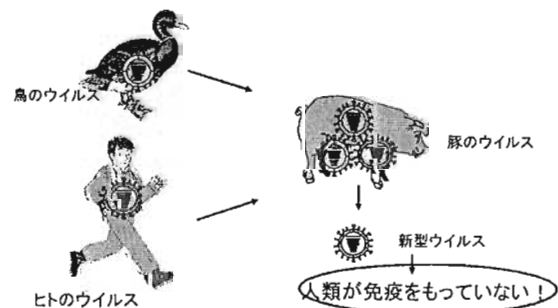
- A型: 人獣共通感染症
(亜型; Hが16種類, Nが9種類)
 $16 \times 9 = 144$ 種類
- B型: ヒトのみに感染

A型インフルエンザウイルス(144種類)



葛田 定: 船舶工学 19.27. 2000

新型ウイルス誕生のプロセス



新型インフルエンザの歴史



1918年	1957年	1968年	1977年
スペインインフルエンザ A(H1N1)	アジアインフルエンザ A(H2N2)	香港インフルエンザ A(H3N2)	ソ連インフルエンザ A(H1N1)
死者2000-4000万人 (日本: 39万人)	100-400万人 (8千人)	100-400万人 (2千人)	
致死率2%	0.53%	現在流行中	現在流行中

※いずれも低病原性鳥インフルエンザからの変異であった。

スペインかぜの流行時との 環境の変化

当時(約80年前)に比べ

- ▶ 環境の格段の向上……………感染者↓
- ▶ 栄養状態の向上(⇒抵抗力の向上)…発病者↓
- ▶ ワクチン……………発病者↓
- ▶ 抗インフルエンザ治療薬……………重症者↓
- ▶ 医療(抗菌薬の進歩) ……二次性肺炎死亡者↓

「インフルエンザ」と「かぜ」の違い

	インフルエンザ	かぜ
症状	高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、せき、のどの痛み、鼻水など	のどの痛み、鼻水、鼻づまり、くしゃみ、せき、発熱(高齢者では高熱でないこともある)
発症	急激	比較的ゆっくり
症状の部位	強い倦怠感など全身症状	鼻、のどなど局所的

新型インフルエンザの症状

表1. 新型インフルエンザ確定症例の症状
A中学・高校(N=64, 2009年5月11日-17日発症)

38℃以上の発熱	53	82.8%	全身倦怠感	36	56.1%
咳	51	81.0%	頭痛	31	50.0%
熱感、悪寒、38℃以下の発熱	42	71.2%	関節痛	20	32.3%
咽頭痛	41	65.1%	筋肉痛	11	17.7%
鼻汁・鼻閉	38	60.3%	下痢	8	12.9%
			腹痛	6	10.3%
			嘔吐	4	6.0%
			結膜炎	3	4.8%

(症状の発症割合は累積割合で算出した)

新型インフルエンザに感染すると

- ほとんどの方は軽症で回復
- 持病のある方々では、治療の経過や管理の状況により重症化するリスクが高い
 - ▶ 慢性呼吸器疾患
 - ▶ 慢性心疾患
 - ▶ 糖尿病などの代謝性疾患
 - ▶ 腎機能障害
 - ▶ ステロイド内服などによる免疫機能不全

他に重症化すると報告されているのは

- ▶ 妊婦
- ▶ 乳幼児
- ▶ 高齢者

感染経路

- 飛沫感染
感染者のくしゃみや咳
- 接触感染
飛沫に汚染された環境表面やモノなどに触れる

これまでの経過

第1段階

- 4月24日 メキシコと米国での患者発生の公表
- 5月8日 米国から成田に到着した乗客での感染を確認
- 5月16日 神戸で国内で初めて3例の感染の報告

対策: 水際対策
(機内検疫, 流行地からの帰国者の健康観察)

第2段階

- 5月16日～神戸・大阪での高校生の感染が中心
- 南半球での感染拡大
- 対策: 学校閉鎖
発熱外来
発熱相談センター

インフルエンザ大流行の6段階 (WHO)

第1段階 ↓	人へ感染する可能性を持つウイルスが動物から検出 (人からは未検出)
第2段階 ↓	人へ感染するリスクが高いウイルスが動物から検出 (人からは未検出)
第3段階 ↓	動物から人への新型ウイルスの感染は確認されているが、人から人への感染はない
第4段階 ↓	人から人への新型のウイルス感染が確認されているが、感染集団は小さい
第5段階 ↓	人から人への新型のインフルエンザ感染が確認され、大流行の可能性が高い、より大きな集団で発生
第6段階	大流行し、一般社会で急速に感染が拡大

第3段階

- 6月19日～
感染拡大を受けて、政府の方針が大幅に変更 (感染の封じ込めはできない。長期戦の覚悟が必要)
- ▷ すべての医療機関で発熱患者を診察
- ▷ 軽症例は自宅で療養
- ▷ 入院は、重症例および基礎疾患を持つ感染例を優先
- 対策: 集団感染の予防に重点を置く

現在の状況

現在の発生状況

- 7月24日時点で、4,986例の確定例
- その後は全国約5000の定点医療機関からの報告
1週間あたり1を超えると「インフルエンザ流行入り」
8月3日～9日0.99
8月10～16日1.69 8月17～23日2.47
(推定11万人が受診) (推定15万人が受診)

8月21日流行シーズン入り

新型インフルエンザ対策

医薬品による対策

ワクチン

抗ウイルス薬

医薬品以外による対策

公衆衛生上の対策

外出の自粛
学校・職場の閉鎖
集会等の制限

検査強化

スクリーニング
咳拭きの自粛

個人防御

咳エチケット
手洗い
マスクの着用

日常生活の注意点

予防の基本

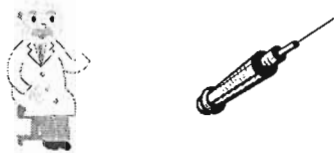
- 流行前に
 - インフルエンザワクチンを接種
- インフルエンザが流行したら
 - 人込みや繁華街への外出を控える
 - 外出時にはマスクを利用
 - 室内では加湿器などを使用して適度な湿度に
 - 十分な休養、バランスの良い食事
 - うがい、手洗いの励行
 - 咳エチケット

インフルエンザワクチン

- 季節性インフルエンザのワクチン
WHOが北半球の流行株を予想
A型2株、B型1株の混合ワクチン
新型には効かない
- 新型インフルエンザのワクチン
9月1日現在の優先順位
医療従事者100万人
持病がある人1000万人
妊婦100万人
乳幼児600万人、生後6カ月未満の乳児の両親100万人
小中高生1400万人
高齢者2100万人

今秋、季節性のワクチンはすべきか？

接種しておいた方がよいです！



インフルエンザは感染性が強い



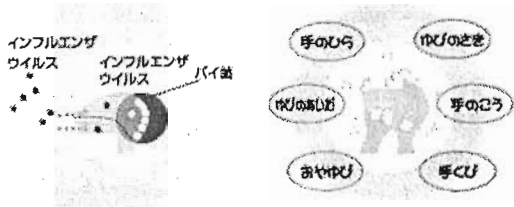
ウイルスは咳、くしゃみをするときに水滴ないし小さな飛沫によって感染する。

ウイルスは鼻、口、目を通して体に入る。

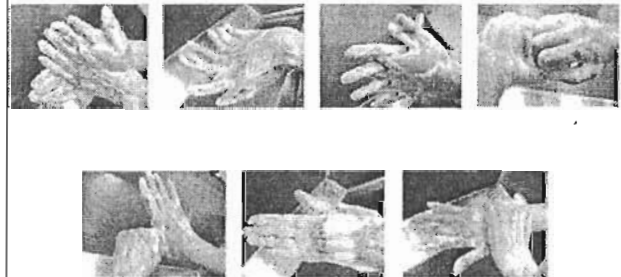
咳エチケット

- 周囲の人からなるべく離れてください
- 咳やくしゃみをするときは、他の人から顔をそらせ、ティッシュなどで、口と鼻を覆いましょう
→使ったティッシュは、すぐゴミ箱へ
- ティッシュがない場合は口を前腕部(袖口)で押さえる。(手のひらでは押さえない！)
- 咳やくしゃみを抑えた手を洗いましょう。
- マスクを着用してください

手洗い



手洗いの手順

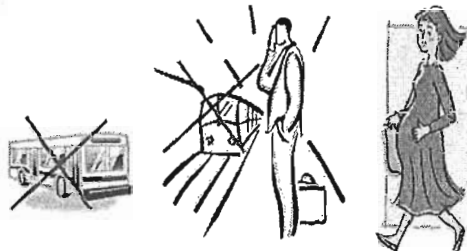


新型インフルエンザの予防 日常生活上の注意点

～糖尿病患者・透析者・妊婦さん向け～

○外出を控えましょう

新型インフルエンザの感染を避けるため、必要時以外の外出は避けましょう。



○マスクを着用しましょう

外出や人の多い場所に出向く時には予防のために…



マスクを着用しましょう。

ガーゼではなく、不織布の方がウイルス対策には効果的です。

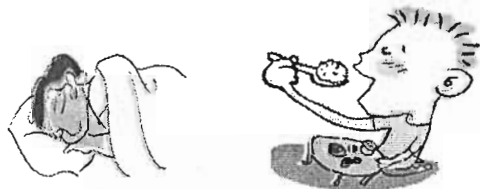
○手洗い・うがいをしましょう

外出や人と接触した後は、すぐに手洗い・うがいをしましょう。手洗いは指先、指の間～手首まで念入りに！



○栄養・睡眠を十分にとりましょう

バランスのとれた食事と十分な睡眠で基礎体力をつけましょう。



○適度な室内環境を保ちましょう

ウイルスは低温、低湿を好み、乾燥しているとウイルスが長時間空中を漂うので、加湿器などで室内の適度な環境を保ちましょう。また、複数の人が触れる場所は、適宜拭き掃除をしましょう。



○薬の処方はこちらかかりつけ医と あらかじめ相談しておきましょう

感染が拡大した場合に備えて、日頃使用しているお薬の処方について、かかりつけ医へ相談しておきましょう。



○体調不良時の相談先を確認し ておきましょう

自分の体調の変化に気を配りましょう。また、体調不良(発熱など)時はかかりつけ医にスムーズに連絡・相談ができるよう、事前に確認しておきましょう。



「インフルエンザかな？」 と思ったら

病院の受診について

- 受診する医療機関の発熱患者対応の診療時間や入口などが分かっていますか？
- もし、わからない場合は必ず電話をしてから受診方法について相談しましょう。
- どの医療機関を受診すればよいか分からない場合→保健所にお問い合わせ下さい

患者さんが自宅で療養するときの注意

①

患者さんは

- 咳エチケットを守りましょう
- 手をこまめに洗いましょう
- 処方されたお薬は指示通りに最後まで飲みましょう
- 水分補給と十分な睡眠を心がけましょう

患者さんが自宅で療養するときの注意

②

患者さんの同居者は

- 患者さんのお世話をした後などは、手をこまめに洗いましょう。
- 可能なら患者さんと別の部屋で過ごしましょう
- 患者と接するときには、なるべくマスクを着用しましょう
- 患者さんの使用した食器や衣類は、通常の洗浄・洗濯でOKです

患者さんが自宅で療養するときの注意

③

持病があったり、妊娠している方が同居している場合

- なるべく別の部屋で過ごすなど、より確実な感染予防が必要です。
- 念のため、かかりつけ医に相談しましょう。
- 医師の判断で予防のためのお薬が処方されることがあります。

重症化のサイン(大人の場合)

- 呼吸困難や息切れ
- 胸の痛みがつづく
- 嘔吐や下痢がつづく
- 3日以上、発熱がつづく
- 症状が長引いて悪化してきた

最後にもう一度

予防の基本

- 流行前に
 - ☑ インフルエンザワクチンを接種
- インフルエンザが流行したら
 - ☑ 人込みや繁華街への外出を控える
 - ☑ 外出時にはマスクを利用
 - ☑ 室内では加湿器などを使用して適度な湿度に
 - ☑ 十分な休養、バランスの良い食事
 - ☑ うがい、手洗いの励行
 - ☑ 咳エチケット

ご静聴ありがとうございました！

